

放射線科この一年

放射線科技師長 前川 勝志

はじめに

4月から放射線技師10名、助手臨時職員2名、助手パート職員2名で業務を行ってきたが、午後からの助手パートがそれぞれの事情により、9月までに2人退職した。その様な状況の中で片山、長谷の協力で放射線技師、科をサポートしていただき感謝しております。また、河野、岩淵、田村技師それぞれの長女、長男が小学校に入学した。仕事と家庭の両立で大変だろうが頑張っていたきたい。

業務について

19年12月時点でCTは岩淵、MRIは河野、RIは佐々木、AGは田村が担当した。

撮影総件数は67,589件で18年と比較して2.2% (1,475件) 増加した。一般撮影、ポータブル、TV骨密度等の件数はそれ程変化していないが、CTは7.7%、MRIは12.1%、AGは21.3%、RIは37.9%と大幅に増加している。AG、RI件数の増加については循環器内科の検査数増によるものである。ちなみに今年CT検査一日の最高撮影人数は77人であり、冠動脈CTも35～40人/月行った。

救急、時間外業務について

現在8名の技師で毎日交代で時間外業務にあっている。撮影人数はH19年で6,278人(1日平均で17,2人)で年々増加傾向にある。H16年(15年は9月からのデータ)に比べて8.5%増加している。今年度から小児科が24時間体制で救急をおこなっているがそれ程影響は受けていない。また、H17年の撮影人数が減少しているのは循環器内科医師減による影響と思われる。来年、救急室の拡張、ICUの設置に伴い現在の時間外体制をいつまで維持できるかが問題である。

装置管理について

放射線科機器はほとんど各メーカーと保守契約を結んで整備、管理を行っている。

現在の大型装置はほとんどがコンピューターによって制御されているため、メーカーは電話回線を利用して装置のトラブル、エラー情報を定期的

に監視し事前に対応しており、我々技師が手を付けれるところはほとんど無い。

しかし、CT装置が平成17年3月に導入以来重大なトラブル、システムダウンはなかったが、今年はトラブルに悩まされた1年だった。CT、MRI装置は救急検査には欠くことのできないモダリティであるため、メーカーに監視の強化を依頼するとともに、我々も日々の点検を怠らず少しでも異常があればメーカーに連絡し点検を行いシステムダウンすることの無いようにしている。

また、RI装置、外科用イメージ装置は平成4年に導入されて現在も使用している。来年以降交換部品が供給できないケースもあり更新時期が課題である。

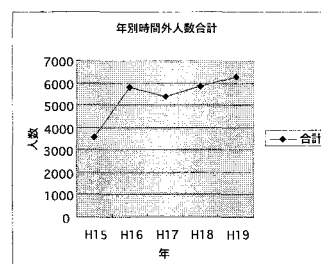
20年の展望

18年に画像サーバを導入しトラブルも無く順調に稼動している。現在RI装置以外が全て接続されており、消化器内科の内視鏡、循環器内科の心エコーの接続が予定されている。また昨年できなかったが、近隣の施設にもDICOM出力装置が導入されており、多少の費用が発生するが施設間の画像転送を開始すべく準備を進めていきたい。

H19年1月～12月の撮影件数

装 置	一般撮影	X-TV	ポータブル	骨密度	小 計
	35,431	3,091	4,943	226	43,691
装 置	C T	M R I	A G	R I	小 計
	15,365	6,814	734	982	23,895
					合 計 67,586

時間外撮影人数



モダリティ別時間外撮影人数

